

## テーマの背景を理解することの大切さ

株式会社カネカ

Performance Polymers Solutions Vehicle

MOD部技術グループMXチーム

寺垣 歩美

私は、2016年3月に工学研究科 応用化学専攻 博士前期課程を終了した後、株式会社カネカに入社し、現在三年目になります。所属研究室では、明石満先生、木田敏之先生のご指導の下、活発で優秀な先輩・同期・後輩と切磋琢磨しながら、充実した三年間を過ごすことが出来ました。私は「超分子化学」を専門としていましたが、所属研究室には、高分子化学を基盤とした再生医療に関する研究をしている学生も多数在籍しており、研究の視野を広げることができました。

次に、私が現在働いているカネカについて、簡単に説明させていただきます。カネカでは、4つのSolutions Unit（事業ドメイン：Material / Quality of Life / Health Care / Nutrition Solutions Unit）にグループ化された、9つのSolutions Vehicle（SV、事業部）からなる幅広い事業展開を行っており、樹脂製品、医薬品中間体、食品など、多岐に渡る製品群を有しています。私の所属するPerformance Polymers SVは、主に樹脂の改質剤を扱っています。日本の研究・製造拠点を中心に、ベルギー・アメリカ・マレーシア・中国・インドの駐在スタッフと共に、グローバルに事業を展開しています。

私は現在、エポキシ樹脂の耐衝撃性改質剤である「カネエースMX」の研究グループで働いています。カネエースMXの用途には、接着剤（特に自動車用構造接着剤）、航空機等の複合材料、電気電子材料等があります。入社一年目の時は、先輩社員の指導の下、製品のスケールアップ検討、新規用途開発の基礎データ取得などに取り組んでおり、二年目からは、構造接着剤の配合技術検討を担当しています。入社当初は、会社に行くのが憂鬱な日もありましたが、現在は、とても仕事にやりがいを感じており、日々充実しています。

今回の執筆にあたり、入社当初から現在までを振り返ってみますと、仕事に対する気持ちが大きく変化していることに気がきました。その原因について、自分なりに考察してみた結果、「テーマの背景を理解すること」が重要なポイントであることに気がきました。一年目の頃の私は、先輩社員の指示通りに仕事を進めることで精一杯の毎日でした。特に、担当していた新規用途開発案件は、ターゲット（出口）がぼんやりしていたこともあり、あまり仕事の面白さを感じることができませんでした。年次が上がり、少

しずつ余裕を持てるようになると、上司の設定したマイルストーンの意図やその背景に目を向けるようになり、担当テーマへの思い入れが深くなりました。特に、現在の構造接着剤のテーマは、ターゲットや目標がある程度明確であることから、テーマの目標を自分の担当業務に具体的に落としこみやすく、より一層理解が深まったのだと思います。

業務目標の意図やその背景事情を理解できると、その後のアクションの質が大幅に変わってきます。例えば、ある案件のデータ取得を依頼された際に、その意図を理解していれば、検討水準の細かさ・比較データの取り方等を適宜変更することができます。特定顧客・一般顧客・特許向け等、データの出口に応じた実験水準の組み方を選択する等、自分なりに工夫することで、効率良く業務を回せるようになりました。今振り返ってみれば、とても単純なことなのですが、入社当初の私は「テーマの背景の理解」が浅く、初期案件ながら細かく検討してしまい、業務に無駄が多かったように思います。現在は、一つ一つの業務の目的を確認し、優先順位を付けることで、気持ちのゆとりを持てるようになりました。

ここで、私の現在の目標を述べさせていただきます。一つ目は、構造接着剤の配合検討の中で培った知識を基に、新たなグレードを開発することです。現在の担当業務は「製品を売る為の技術（製品のより良い使い方）を開発し、紹介すること」であり、「モノ作り」を経験したいという思いが強いです。隙間時間を作り、グレード開発検討を継続したいです。二つ目は、英語でテンポ良く会話できるようになることです。所属部署には海外拠点が多いこともあり、海外メンバーとの交流する機会が度々ありますが、ネイティブのスピードを聞き取るのに精一杯で、会話するのに苦労しています。現在、社内開催のグループ英会話レッスンを週に1回受講しており、レッスンを継続しながら英会話スキルを磨きたいと思います。社会人生活は、研究室時代とは全く違う発見が多く、社会人三年目ながらもまだまだ新鮮な気持ちで働いています。自分らしい仕事のスタイルを確立していきたいです。最後に結びと致しまして、この様な執筆の機会を与えて下さった、恩師・木田先生に深く御礼申し上げます。

（応用自然 平成26年卒 平成28年前期）